

ナデシコ科 ハコベ属

ノミノフスマ (蚤の衾)

Stellaria uliginosa Murray var. *undulata* (Thunb.) Fenzl

自生環境

水田、野原 など

原産地

日本在来

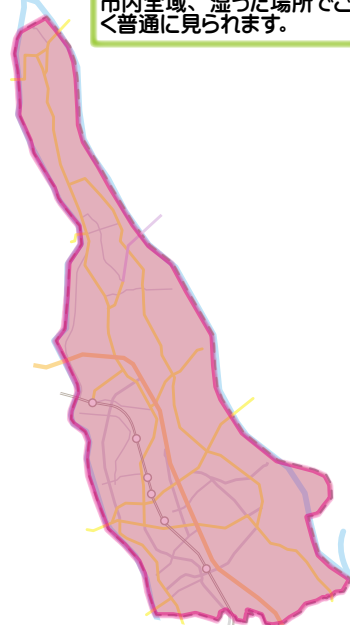
生育を脅かす要因



市内全域に生え、数も多いため、今のところ絶滅の心配はありません。ただ、生えている場所柄、除草剤散布など人間活動の影響を受けやすいと考えられます。

市内の分布状況

市内全域、湿った場所でごく普通に見られます。



特徴

- ☆ 日当たりのよい湿った場所にごく普通に生える1～越年草です。特に水田に多く、田起こし前にはタネツケバナとともに白い花畑をつくっていることもあります。分類上は、春の七草のハコベと同じ仲間です。
- ☆ 花畑になるほどよく咲くのは春先ですが、それ以外の季節にも咲いている姿を見かけます。花びらは5枚ですが、V字形に深く切れ込むため、まるで10枚あるように見えます。気温の高い時期は、花びらが小さくなって枚数が減ることもあります。無花弁になることも珍しくありません。
- ☆ 果実はがくに包まれたままぶつくりと膨らみます。成熟するとまるで緑色の花が開いたかのように5つに割れて、中から小さなタネが多数こぼれ落ちます。

名前のフスマの正体は？

名前のフスマは、和室の扉の「襖」ではなく、「衾」のことです。衾は長方形の布でできた寝具で、今でいうところの掛布団に相当するものです。ノミノフスマは葉が細長いため、昔の人は衾を連想したのでしょう。さらにサイズが小さいため、ノミが使うだろうとして「ノミの衾」となったのです。オオヤマフスマやメアカンフスマなど、ナデシコ科の草花には〇〇フスマがほかにも何種類かあります。

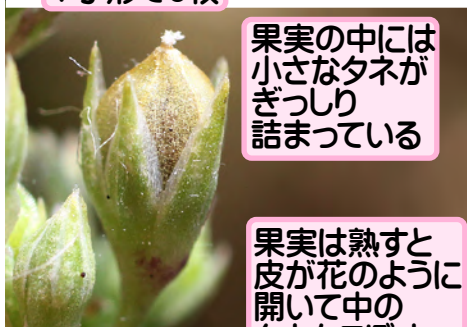


茎の先に
白い花を
次々と咲かせる



柱頭は
先が3つに
分かれる

花びらは
V字形で5枚



果実の中には
小さなタネが
ぎっしり
詰まっている

果実は熟すと
皮が花のように
開いて中の
タネをこぼす



冬の水田で
暖くなるのを
待っている



細長い葉が2枚ずつ
向かい合わせにつく

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

